

初夏の北東アジア研究交流および調査出張報告 — 曲阜、満州里、ハルビン、綏芬河、ウスリースク、ウラジオストク —

ERINA 調査研究部長・主任研究員 三村光弘

2011年6月8日～22日の間、中国・山東省の済南、曲阜、内モンゴル自治区の満州里、黒龍江省のハルビン、綏芬河、ロシア・沿海州のウスリースク、ウラジオストクを訪問する機会があった。済南では宿舎と会議場所の往復に滞在のほぼすべてを費やしたので、今回は、それ以外の街でいくつか目についた点についてご報告したい。

孔子の故郷は重要な観光資源

今回、会議のエクスカージョンで孔子の故郷である曲阜市を訪れた。中国で孔子がどのように取り扱われているの

か、大変興味があった。曲阜市は、中国の歴史遺産保護制度である「国家歴史文化名城」ができた1982年に第一次対象として選ばれたほか、94年にはユネスコの世界遺産にも指定されている。その他、国家観光局が指定する5A級（最高級）の観光地にも指定されており、重要な観光資源として認識されている。

東アジアの文化に多大な影響を与え、中国の歴代王朝から厚遇された儒教の創始者の故郷なので、荘厳さを想像したのだが、実際に行ってみると観光地化されており、かなり商業化されていた。孔子の一族がまつられている孔林は

写真1 曲阜の旧市街は中国に66ある5A級観光地のひとつ



(出所) 筆者撮影

写真2 記念撮影をする観光客



(出所) 筆者撮影

写真3 商業化も日本に習う



(出所) 筆者撮影

全くの観光地というわけではなく、林の中に歴代の直系、傍系の人々の墓が散在し、高野山の金剛峯寺の奥の院のような雰囲気であった。だが、さまざまな人の墓がある高野山とは異なり、林の中の墓がすべて一族のもの、というのが宗族意識によってまとまっている中国の文化を象徴しているように感じた。

写真4 市内のマトリョーシカ広場



(出所) 筆者撮影

写真5 国境を越えて入ってくる貨物列車



(出所) 筆者撮影

中国最大の陸路国境、満州里

次に訪問したのは内モンゴル自治区の満州里市であった。満州里市は全市人口約16万人（内蒙古年鑑2010）で、市域には郊外も含むため、市内の人口は約10万人強である。1901年の東清鉄道の開通により、清国側の最初の駅として作られたのが満州里駅であった。以後、鉄道運輸を中心に街は発展していき、1992年3月には沿辺（国境地域）開放都市の第一陣として指定された。中国とロシア、欧州東部との貿易の約6割が満州里を通過し、中国最大の陸路交易が行われる街と言われている。

満州里では現在、主に鉄道による貨物の輸出入のほか、ロシアからの観光、買い物客の受け入れやロシア国境の雰囲気を楽しむ国内外の観光客による観光などが主な産業となっている。写真4は市内の「マトリョーシカ広場」にある巨大なマトリョーシカを模した建物で、この付近で国境を接している中国、モンゴル、ロシアの女性の姿が3面に描かれており、建物自体はロシア料理店となっている。広場には小さなマトリョーシカのほか、十二支の像もあり、ロシア風情と中国風情がまぜこぜになっている興味深い場

写真6 市内の広場でくつろぐロシア人観光客



(出所) 筆者撮影

写真7 ロシア人向けの商店



(出所) 筆者撮影

所であった。

市内中心から約8キロ北西には、鉄道が国境を越える場所があり、そこに写真5のような大きなアーチ状の建造物「国門」がある。満州里駅と隣のロシア・ザバイカリスク駅の間は広軌が2本、標準軌1本の計3本の線路でつながっており、長大編成の貨物列車が行き来している。この「国門」は国境線とロシア側の「国門」そしてザバイカリスクの街並みが見えるので重要な観光地となっており、一般観光客の入場料は80元（約1,000円）もする。国門の線路を跨ぐ部分は展示スペースとなっており、国境を訪れた中国の指導者の現地指導の写真などが飾られている。国門の西側には、これまでの国門の模型（現在の国門は五代目の国門）が展示され、観光客が写真撮影をしていた。

市内にはロシア人向けにロシア語で表示した商店やレストランも多い。また、ロシア人を主な対象とした日用雑貨の商店もあちこちで見ることができた。ロシア人観光客は市内の雰囲気に溶け込んでおり、風景の一部になっている。じろじろ見る人はいない。筆者のようにロシア人と中国人が渾然一体となった様を物珍しげに見ているのは、中国国内から来たとおぼしき観光客だけだった。

市内のロシアレストランは、故郷の味を求めるロシア人観光客とロシアの香りを求める中国人観光客が入り交っていた。中国人観光客にとっては、歌にあわせて踊っているロシア人観光客そのものが国境を感じさせる観光の対象となっているようだ。境界に存在することを十二分に生かして商売の種にするたくましい商魂を目にすることができた。

第4回東北アジア地域発展国際フォーラム

ハルビンでは6月14日～15日に開かれた第4回東北アジア地域発展国際フォーラムに参加した。同フォーラムはハルビン商談会の関連行事として、黒龍江省人民政府が中国社会科学院と共催し、黒龍江省社会科学院が運営を行う国際会議である。14日に全体会議、15日に分科会とハルビン商談会の見学があった。全体会議は、中国社会科学院や各国の公館、黒龍江省や近隣のロシアの地方政府の代表などが発表を行い、討論は行わない昔ながらの中国式会議であった。分科会は、中ロ、日中、中韓蒙の3つの分科会に別れ、発表と討論を行う方式で行われた。筆者は日中分科会に参加し、発表した。黒龍江省社会科学院には日本語を解する研究員が多いため、同分科会では発言と討論はすべて日本語で行われた。

分科会終了後、ハルビン商談会を見学した。筆者は北朝鮮の研究を行っているため、今回は北朝鮮企業の出展を中心に調査を行った。今回の商談会には北朝鮮から、朝鮮郵

写真8 第4回東北アジア地域発展国際フォーラムで発言する日本代表



(出所) 筆者撮影

写真9 ハルビン商談会に出展する北朝鮮企業



(出所) 筆者撮影

写真10 北朝鮮企業に展示されていた鉱石の粉末



(出所) 筆者撮影

票（切手）社、朝鮮ハイテク技術開発センター、朝鮮高麗心清会社、朝鮮平壤貿易会社、朝鮮健康合作会社、朝鮮大成山貿易会社、朝鮮国際展覧社、朝鮮三日浦貿易会社、朝鮮長生貿易会社、朝鮮仙景貿易会社の出展が確認できた。写真10は、朝鮮仙景貿易会社が展示していた鉱石の粉末である。

朝鮮仙景貿易会社の業務案内には、各種の非鉄金属鉱物

粉の輸出と燃料油の輸入が業務として書かれており、次のような開発案件のリストが記載されていた。

1. 石炭、6,000カロリー以上、灰分14%
2. 磁鉄鉱、埋蔵量3,000万トン、平均含量23%、開発条件は露天掘り
3. チタン鉄鉱 (FeTiO_3)、埋蔵量8,000万トン、平均品位 TiO_2 、5～6%、 Fe_2O_4 、18～20%、開発条件は露天掘り
4. チタン鉄鉱 (FeTiO_3)、埋蔵量3,000万トン、平均品位 TiO_2 、7%、開発条件は露天掘り
5. 蛭石、埋蔵量5,000万トン、開発条件は露天掘り
6. 金紅石 (TiO_2)、埋蔵量300万トン、開発条件は露天掘り

2011年に入って北朝鮮が鉱物資源の輸出に積極的になっているという報道がある中、ハルビン商談会においても鉱物資源開発への投資を募集しようとする動きがあることが確認された。

20世紀初頭に栄えた国際都市、綏芬河

ハルビンでの日程を終え、ロシアが1897年に清国領内に建設した東清鉄道の一部となる鉄道を利用して、ロシア国境の綏芬河へと向かった。綏芬河は東清鉄道の開通とともに、ロシアの鉄道附属地となった。1921年には付属地の行政権が中国側に戻され、1926年には綏芬河市が設置された。当時は人口が20万を超え、国境都市として賑わった。現在は、常住総人口が56,670人、流動人口を含めると10万人ほど（綏芬河市ホームページ）と、最盛期の半分ほどの人口である。

綏芬河では、綏芬河総合保税區を訪問し、総合保税區的機能と魅力、将来性についての説明を受けた。綏芬河の100年以上にわたる隣国との交流の歴史は、国際政治に翻弄される歴史でもあったはずだが、同時に綏芬河にとって生きる糧を得るための試行錯誤の歴史だったのである。市内の市場や商店でのロシア人観光客やバイヤーへの周到かつ丁寧な対応から、綏芬河の人々がロシアとの経済交流にかける覚悟を感じた。

綏芬河は東清鉄道の開通によりロシアと鉄道でつながっていたが、1980年代に入り、道路でも連結されるようになった。写真11はロシアとの国境線である。写真左側の道幅が狭くなっているところが国境から各5メートルの緩衝地帯への入口で、中央の建物はロシアの国境警備隊が使用している建物である。綏芬河と国境の向こう側のポグラニチニ（グロデコボ）との間は1日に鉄道が2往復、バスが30往

復（うちウスリースク行き4便、ウラジオストク行き1便を含む）運行されている。

筆者も綏芬河の国際バスターミナルから、朝8時50分発のウスリースク行き国際バスに乗車した。このバスは、中国籍の車両で、牡丹江からやってくる。一時は担ぎ屋貿易が大変盛んだったこの路線、荷物の制限が厳しく、無料で運んでもらえるのは一人あたり15キロのみ、それ以上30キロまでは1キロあたり4元（約50円）の追加料金が必要だ。筆者の荷物は22キロだったので、7キロオーバー、28元（約350円）の追加料金を払って荷物をバスのトランクスペースに搭載すべく預けた。

バスは定刻の8時50分少し前に到着し、9時02分に綏芬河のバスターミナルを出発した。中国側の国境には9時15分着。トランクに預けた荷物を持って税関検査と出国審査を受ける。中国側の税関検査はX線検査機に荷物を通すだけ、出国審査は1人あたり30秒～40秒ほどで終わる。ある程度の規模の国境や空港ならどこでもそうだが、中国の出入国関連手続は迅速だ。

9時40分に中国側の国境を出発し、写真11の国境線を越

写真11 ロシアとの国境線



(出所) 筆者撮影

写真12 ロシアに向かう国際バス



(出所) 筆者撮影

え、ロシア側に入るとすぐに国境警備隊のチェックポイントがあり、乗車してきた係官にパスポートを提示する。チェック後、ロシア側の出入国手続を行う場所までは10分程度耕作されていない原野の中を走る。ロシアとの時差は3時間。現地時間12時53分にロシア側の税関の建物に到着。またバスのトランクから荷物を引き出し、まず入国審査、次に税関検査を受ける。ロシア側の入国審査はパスポート自体が偽造されていないかどうかを見極めるために1分、それからおもむろに端末機を操作して手続を行うが、1人あたり最低でも4分はかかる。中国の6倍ほどだ。そのため、窓口は3レーンあり、中国の2レーンよりも多いが、待ち時間は長い。税関検査は、税金がかかるような大きな荷物を持っていないければX線検査機に荷物を通すだけで終了する。入国審査に時間がかかるので、全員の検査が終わるまで出発できず、手続で若干のトラブルがあった乗客がいたため、ロシアの税関を出発したのは14時17分だった。途中、ポグラニチニまでの乗客を降ろしてから一部非舗装部分があるものの、それなりに整備された道をウスリースクまで一気に駆け抜ける。途中、道路の拡幅工事を行っている箇所が多く、徐行運転が続いた。北朝鮮にせよ、ベトナムにせよ、中国と周辺諸国の国境地方では、中国側のインフラが整備され、物流量が増え、その後隣国のインフラが数年から10年ほど遅れて整備されるというのがおきまりのパターンのようなのだ。ウスリースクのバスターミナルには、16時13分に到着。近い割には検査に時間のかかった4時間

写真13 国際バスの時刻表

国际客运站发车运行时刻表(夏令时)		
班次	发车时间	到站
9001	5:50	俄城
9002	6:10	俄城
9003	6:30	俄城
9004	6:50	俄城
9005	7:10	俄城
9006	7:30	俄城
9007	7:50	俄城
9008	8:10	俄城
9009	8:30	俄城
9010	8:50	高麗東(牡丹江)
9011	9:10	俄城
9012	9:30	俄城
9013	9:50	俄城
9014	10:10	俄城
9015	10:30	俄城
9016	10:50	俄城
9017	11:10	俄城
9018	11:30	俄城
9019	11:50	俄城
9020	12:10	俄城
9021	12:30	俄城
9022	12:50	俄城
9023	13:10	俄城
9024	13:30	俄城
9025	13:50	俄城
9026	14:10	俄城
9027	14:30	俄城
9028	14:50	俄城
9029	15:10	俄城
9030	15:30	俄城
9031	15:50	俄城
9032	16:10	俄城
9033	16:30	俄城
9034	16:50	俄城
9035	17:10	俄城
9036	17:30	俄城
9037	17:50	俄城
9038	18:10	俄城
9039	18:30	俄城
9040	18:50	俄城
9041	19:10	俄城
9042	19:30	俄城
9043	19:50	俄城
9044	20:10	俄城
9045	20:30	俄城
9046	20:50	俄城
9047	21:10	俄城
9048	21:30	俄城
9049	21:50	俄城
9050	22:10	俄城
9051	22:30	俄城
9052	22:50	俄城
9053	23:10	俄城
9054	23:30	俄城
9055	23:50	俄城
9056	00:10	俄城
9057	00:30	俄城
9058	00:50	俄城
9059	01:10	俄城
9060	01:30	俄城
9061	01:50	俄城
9062	02:10	俄城
9063	02:30	俄城
9064	02:50	俄城
9065	03:10	俄城
9066	03:30	俄城
9067	03:50	俄城
9068	04:10	俄城
9069	04:30	俄城
9070	04:50	俄城
9071	05:10	俄城
9072	05:30	俄城
9073	05:50	俄城
9074	06:10	俄城
9075	06:30	俄城
9076	06:50	俄城
9077	07:10	俄城
9078	07:30	俄城
9079	07:50	俄城
9080	08:10	俄城
9081	08:30	俄城
9082	08:50	俄城
9083	09:10	俄城
9084	09:30	俄城
9085	09:50	俄城
9086	10:10	俄城
9087	10:30	俄城
9088	10:50	俄城
9089	11:10	俄城
9090	11:30	俄城
9091	11:50	俄城
9092	12:10	俄城
9093	12:30	俄城
9094	12:50	俄城
9095	13:10	俄城
9096	13:30	俄城
9097	13:50	俄城
9098	14:10	俄城
9099	14:30	俄城
9100	14:50	俄城
9101	15:10	俄城
9102	15:30	俄城
9103	15:50	俄城
9104	16:10	俄城
9105	16:30	俄城
9106	16:50	俄城
9107	17:10	俄城
9108	17:30	俄城
9109	17:50	俄城
9110	18:10	俄城
9111	18:30	俄城
9112	18:50	俄城
9113	19:10	俄城
9114	19:30	俄城
9115	19:50	俄城
9116	20:10	俄城
9117	20:30	俄城
9118	20:50	俄城
9119	21:10	俄城
9120	21:30	俄城
9121	21:50	俄城
9122	22:10	俄城
9123	22:30	俄城
9124	22:50	俄城
9125	23:10	俄城
9126	23:30	俄城
9127	23:50	俄城
9128	00:10	俄城
9129	00:30	俄城
9130	00:50	俄城
9131	01:10	俄城
9132	01:30	俄城
9133	01:50	俄城
9134	02:10	俄城
9135	02:30	俄城
9136	02:50	俄城
9137	03:10	俄城
9138	03:30	俄城
9139	03:50	俄城
9140	04:10	俄城
9141	04:30	俄城
9142	04:50	俄城
9143	05:10	俄城
9144	05:30	俄城
9145	05:50	俄城
9146	06:10	俄城
9147	06:30	俄城
9148	06:50	俄城
9149	07:10	俄城
9150	07:30	俄城
9151	07:50	俄城
9152	08:10	俄城
9153	08:30	俄城
9154	08:50	俄城
9155	09:10	俄城
9156	09:30	俄城
9157	09:50	俄城
9158	10:10	俄城
9159	10:30	俄城
9160	10:50	俄城
9161	11:10	俄城
9162	11:30	俄城
9163	11:50	俄城
9164	12:10	俄城
9165	12:30	俄城
9166	12:50	俄城
9167	13:10	俄城
9168	13:30	俄城
9169	13:50	俄城
9170	14:10	俄城
9171	14:30	俄城
9172	14:50	俄城
9173	15:10	俄城
9174	15:30	俄城
9175	15:50	俄城
9176	16:10	俄城
9177	16:30	俄城
9178	16:50	俄城
9179	17:10	俄城
9180	17:30	俄城
9181	17:50	俄城
9182	18:10	俄城
9183	18:30	俄城
9184	18:50	俄城
9185	19:10	俄城
9186	19:30	俄城
9187	19:50	俄城
9188	20:10	俄城
9189	20:30	俄城
9190	20:50	俄城
9191	21:10	俄城
9192	21:30	俄城
9193	21:50	俄城
9194	22:10	俄城
9195	22:30	俄城
9196	22:50	俄城
9197	23:10	俄城
9198	23:30	俄城
9199	23:50	俄城
9200	00:10	俄城

(出所) 筆者撮影

の旅は終わった。

ウスリースクの中国市場

ウスリースクには、3つの中国人が大きく関与する市場が存在する。一番大きいのが小売り機能と卸売り機能が同居する(場内での場所は別々)中国市場。中国市場とは、主に中国から輸入された商品を扱う市場で、市場の中のスペースを個人(ほとんどが中国人)が借りて営業するスタイルのものである。次に青果の卸売市場、最後に建材市場である。

中国市場は、ウスリースクの街はずれにあり、昼に開いている小売り機能中心の場所(中国語では昼間に開いている市場ということで「白市」と卸売り機能中心の場所(中国語では夜開いている市場と言うことで「夜市」)に分かれている。前者は衣料品、日用雑貨、カー用品、玩具、自転車、家電製品など幅広い軽工業製品と食料品を中心に取り扱っている。後者は食品は取り扱わず、衣料品や日用雑貨を中心にした品揃えだ。

「夜市」はその名の通り、午後10時から翌日の未明まで

写真14 ウスリースクの中国市場に隣接する倉庫



(出所) 筆者撮影

写真15 ウスリースクの野菜の卸売市場



(出所) 筆者撮影

写真16 コンテナでできた「夜市」の店舗



(出所) 筆者撮影

写真17 「綏芬河商貿城」の外観



(出所) 筆者撮影

が開店時間で、開店5分前になると一斉に店の開店準備が始まる。開店の30分前からウラジオストク、ナホトカなど沿海地方の各都市から仕入れの業者が集まってくる。「白市」では中国人の店主が接客することも多いが、「夜市」では、必ずロシア人の店員を1名以上雇用することが条件となっている。そのため、ロシア人の比率が「白市」よりも高い。夜市の中にある「綏芬河商貿城」はコンテナではなく、建物の中の販売台を賃貸するかたちとなっている。

青果の卸売市場はウスリースクの郊外にあり、中国から運ばれてきた青果類の流通の拠点となっている。主に山東省から運ばれてきたトマトやパプリカ、タマネギ、キャベツなどが流通していた。

建材市場は中国市場の近くにあり、照明器具や家具、タイル、水道の蛇口やシャワーヘッド、衛生陶器など、家の内装に必要なものがひとそろう売られている。店で働いているのは、前2つの市場よりもロシア人が多く（所有関係まではインタビューできなかった）、見た目には中国色がうすい。

ウスリースクには、市場のほか、中国人が経営する中華

料理レストランが市場の中だけでなく、市内のあちこちにある。大規模なレストランはなく、ほとんどが個人経営とおぼしい「食堂」レベルのものだ。客層を見ると、場所にもよるが住宅地の中にあるレストランだとロシア人が6割程度、中国人が4割弱といった感じだった。料理はほとんどが東北家庭料理で、味は数軒回った感想では、それほど外れではなかったと思う。

建設ラッシュで交通渋滞の激しいウラジオストク

ウスリースクを出発し、ウラジオストクへ向かった。距離は約100キロ、快調にいけば1時間半ほどで到着する距離だ。しかし、来年にAPEC会合開催を控えるウラジオストクは道路や橋といったインフラ整備の真っ最中。空港のあるアルチョム市を過ぎ、ウラジオストク市内に近づくと道路の拡幅工事現場の脇を仮設の道路で進んでいく。結局、フトラヤレーチカのバスターミナルまでの所要時間は2時間10分だった。バスターミナルは街の北はずれにあるので、市内のホテルまでタクシーに乗る。正式のタクシーが見当たらないので、目をこらして探していると、目の前の車から「タクシー？」と声がかかった。白タクなのだが、ロシアではよくある一般市民が突然タクシー運転手になるというパターンのようなのだ。20代前半の気のいい男性が運転していたので、乗り込む。市内のホテルまで600ルーブル（約2,300円）。バス代が600円ほどだったので、すごく高い気がするが荷物もあるので仕方がない。ホテルに近づくとつれて渋滞がひどくなる。交通麻痺と言ってもよい状況で全く車が流れない場所もある。結局、アムール湾沿いのホテルに着いたのは1時間半後だった。

市内を歩いても写真18のように、歩道を掘り返して工事を行っていたり、舗装の改修工事を行っていたりするところが多かった。APECの会合までにインフラ整備が間に合う

写真18 ウラジオストク市内ではあちこちで工事が



(出所) 筆者撮影

のか、という気もするが、会合終了後もずっとこの地で生活する人々にとっては、自分たちの街の環境が改善される

ことが重要で、会議参加者がきれいな街並みを楽しむことができるかどうかにはそれほど関心がないのかもしれない。